

学習の導入例

- 自分の住んでいる地域で、過去に災害があったかどうかを調べてみる。
- 自宅や学校に、災害の危険性があるかどうかを知っているか?
- ハザードマップを実際に見たことがあるか? どこで見たとあるか?
- これまでに、ハザードマップを使って、自宅周辺の災害の危険性を調べたことがあるか?
- 災害が起きたときの避難先や避難経路について、家族などと話し合ったことがあるか?

学習の目標





ハザードマップの読み取り方を理解したうえで、身近な地域の自然災害の危険性を判断し、避難先や避難経路を考えることができるようになること。

学習項目

- 1 ハザードマップとは
- 2 ハザードマップの読み取り方
- 3 ハザードマップの詳しい読み取り方 (土砂災害・洪水ハザードマップを例に)
- 4 避難先や避難経路の考え方

学習の進め方

学習のねらい 演習問題との対応	学習動画・演習問題の学習内容における重要項目 ● 補足事項 ◆	学習内容を深めるための、生徒への投げかけ★
<p>1 ハザードマップとは 演習!</p> <p>2 ハザードマップの読み取り方</p> <p>ハザードマップの基本事項を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ハザードマップは、市町ごとに作成されており、凡例は市町によって異なる場合がある。 ● ハザードマップは、災害種別に作成されている。(土砂災害、洪水、浸水、高潮による災害など。) ● ハザードマップで色がついている範囲には、災害の危険性がある。 ● ハザードマップに色が塗られていない範囲で災害が起きたり、想定された被害よりも大きな被害になったりする可能性があることを理解する。 >>> 「色が塗られていない場所は安全だ」とは言いきれないことに注意! 	<ul style="list-style-type: none"> ★ ハザードマップは自宅にあるか? ない場合は、市町の窓口や市町の公式サイトでハザードマップを入手する。もしくは、災害の危険性のある場所を調べることができるウェブサイトなどを活用する。 >>> 詳しくは、このあとの実践「マイ・タイムライン作成ステップ①」を参照。 ★ ハザードマップで災害の危険性を確認するとき、気をつけなければならないことを話し合ってみよう。
<p>3 ハザードマップの詳しい読み取り方 (土砂災害・洪水ハザードマップを例に) 演習?</p> <p>土砂災害のハザードマップの読み取り方を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ハザードマップの凡例をもとに、がけ崩れや土石流による災害の危険性を読み取ることができる。 ● 土砂災害のハザードマップは、身体や人の命に危害が生じるおそれのある場所を、土砂災害特別警戒区域(赤色)と土砂災害警戒区域(黄色)に分けて示している。特に、土砂災害特別警戒区域は、著しく危険な場所である。 >>> 凡例は自治体ごとに異なることがあるので、必ず凡例を確認する。 ◆ 土砂災害からの避難方法は、危険な場所から避難をする「立ち退き避難」である。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 土砂災害ハザードマップで、自宅の周囲の土砂災害の危険性を確認しよう。

学習のねらい 演習問題との対応	学習動画・演習問題の学習内容における重要項目 ● 補足事項 ◆	学習内容を深めるための、生徒への投げかけ★
<p>3 ハザードマップの詳しい読み取り方 (土砂災害・洪水ハザードマップを例に)</p> <p>演習3</p> <p>洪水のハザードマップの読み取り方を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 「浸水深」とは、水面から地面までの深さのこと。 ● ハザードマップの凡例をもとに、洪水の危険性を読み取ることができる。 ● 洪水のハザードマップは、浸水する深さに応じて色分けされている。 >>>凡例は自治体ごとに異なることがあるので、必ず凡例を確認する。 ◆ 洪水ハザードマップには、「計画規模」と「最大想定規模」がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 洪水ハザードマップで、自宅の周囲の洪水の危険性を確認しよう。 ★ もし洪水の危険性がある地域の場合、避難所などへの立ち退き避難が必要なのか、2階以上の部屋に避難（屋内安全確保）すべきかを判断しよう。
<p>4 避難先や避難経路の考え方</p> <p>演習4</p> <p>避難先や避難経路を考えるとときに重要なことを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難先や避難経路は、災害が起こりそうになってから考えるのではなく、日頃から家族などで話し合っておく。 ● 避難先は、避難経路が利用できなくなるなどの場合を考えて、自治体（市町）が指定している避難所や安全な場所にある知り合いや親戚の家など、2か所以上決めておく。 ● 川が増水する可能性がある場合は、川沿いの道やがけの近くを通らないなど、危ない場所をなるべく避けて、安全なルートを決めておく。また、複数の避難経路を考えておく。 ◆ 自治体（市町）が指定している避難所は、対応する災害種別がハザードマップに記載されている。 >>>全ての災害に対応しているわけではない。また、「洪水の場合、2階以上を避難スペースとして活用できる」等の条件が付いている場合もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 土砂災害や洪水が起きて避難する場合、自宅の近くに危険な場所はあるか？ また、なぜ危険か？ ★ これまでに、家族などで自然災害が起きたときの避難先について話し合ったことがあるか？ ★ 話し合っていない場合、避難先を考えてみよう。また、なぜその場所を避難先にしたのかという理由も考えてみよう。
<p>自宅の災害の危険性を調べてみましょう</p> <p>実践1</p> <p>マイ・タイムライン作成ステップ①</p> <p>ハザードマップを使って、自宅の災害の危険性を調べることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 自宅や学校、自分がよく行く場所など、「どこに」「どのような」災害の危険性があるか理解できている。 【学習の内容を実践】 ● ハザードマップ以外に、災害の危険性を調べる方法を理解している。 <p>・国土交通省ハザードマップ</p>  <p>・土砂災害ポータルひろしま</p>  <p>・洪水ポータルひろしま</p>  <p>・高潮・津波災害ポータルひろしま</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ★ ハザードマップで自宅の災害の危険性を確認する。（同じ地域の人でまとまって、ハザードマップの確認を実施してもよい。） ★ 自宅の周辺や学校、自分がよく行く場所などに、災害の危険性があるか調べてみる。
<p>あなたの避難先を考えてみましょう</p> <p>実践2</p> <p>マイ・タイムライン作成ステップ②</p> <p>ハザードマップを使って、避難先や避難先までの避難経路を考えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害の危険性を踏まえて、避難先を考えることができる。 ● 避難先までの避難経路を、複数考えることができる。 ◆ 自宅が安全な場所にある場合は、「自宅」を避難先にすることが可能。いざというときの安全のために、もう1つの避難先を考えておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 「避難先はどこにしたか？」「どのような経路を通って避難するか？」について、周囲の人と話し合ってみよう。 (例) ・同じ地域に住む生徒ごとにとまって、ハザードマップを使って避難先や避難経路等を考えてもよい。 ★ 避難先に行くまでの経路で、大雨が降ると危険な場所はあるか？ ★ 避難先を決める場合は、避難先までの程度時間がかかるかを考えておく。